

馬に投げ飛ばされ

わたしの調査地はアマゾン川上流の先住民居住区である。飛行機の定期便がある町から、船外機付カヌーで三日ほど川をさかのぼり、そこから半日ほど歩かなければならない。この地域では、雨季には川の水があふれ出し、そこらじゅう水浸しになるため、カヌーでどうでもいくことができる。しかし、乾季

には平原が乾燥するため、馬での移動が欠かせない。そこで問題は、スーツケースをどうやって馬に乗せて運ぶかである。

わたしの友人たちは、スーツケースの中身を半分、穀物袋に移し替え、その袋とスーツケースを紐で結んで、馬の背に乗つけるという解決策をとった。しかし、どうやらアマゾンの馬には、スーツケースの固い感触がお気に召さない。

かつたようである。移動中、馬は暴れだし、スーツケースを地面に投げ飛ばすまで、狂つたようになってしまった。こんなことが繰り返されるので、われわれはスーツケースの中身をすべて穀物袋に移し替え、空のスーツケースも袋に入れて、馬の背にくくりつけることとした。つまり、わたしのスーツケースは、収納すべき荷物と化したわけである。とにかく、この方法により、よ

うやく馬はおとなしく荷物を運んでもれるようになった。

このスーツケースはその後、旅行に使うことはなかった。馬の汗の強烈な臭いが染みついて、とてもじゃないが、人中でもち歩くことができなかつたからである。

三個目のスーツケースを買う予定は、



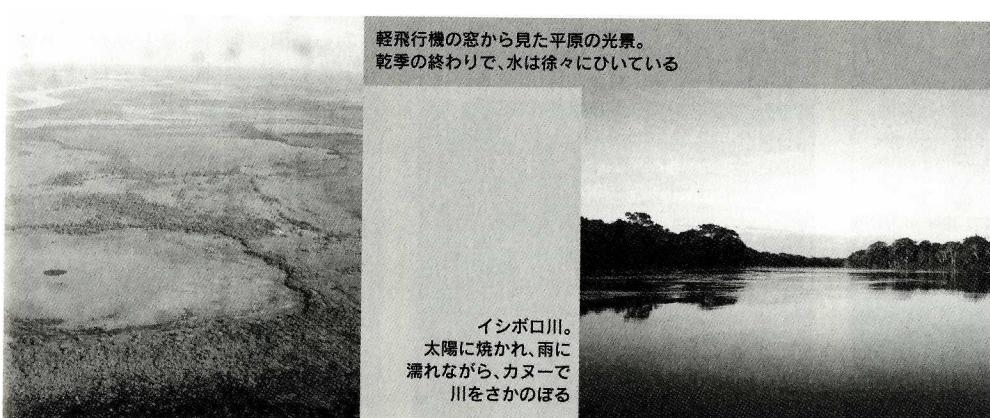
馬は重要な交通手段であるほか、牛の放牧にも不可欠である

海外旅行用のスーツケースが壊れてしまつた。二〇〇四年末に購入したのだから、二年もたなかつたことになる。車輪のひとつがだめになり、また鍵もいかれてしまつた。無理な使い方をしたつもりはなかつたのにあつけないものである。

そもそも、わたしはスーツケースがきっかけにも重そうに見える。南アメリカのフィールドにいくときは、登山用のリュックサックかスポーツバッグタイプの旅行カバンをもつていく。そんなわたしがスーツケースを購入したのは、ここ数年、欧米へ出張する機会が増えているからである。舗装された道路を歩くなら、スイーツケースはじゃまにならないし、型崩れしないぶん、運びやすいともいえる。水気や汚れもはじいてくれる。とはいっても、歐米だって、どこでも舗装されているわけではない。車輪が壊れてしまつたのは、ドイツの地方都市で砂利道の上を引きずり回したからだと思う。

金庫として活躍

じつをいえば、スーツケースを購入したのは初めてではない。大学院生のとき、ボリビアの首都ラパスで、有名ブランドのりっぱなスーツケースを買つたことがある。なぜそんなものを買ったかといふと、調査地の村で、現金等の貴重品を



軽飛行機の窓から見た平原の光景。
乾季の終わりで、水は徐々にひいている

収納する金庫として役立つと、大学の先輩からアドバイスを受けたからである。おかげさま、盗難の被害にあうことはなかつたが、このスーツケースの運搬には苦労させられた。